

臨時国会が開会し、介護保険や行政改革、継続審議となつているNPO法案に

NPO 最前線

地に船を出す市民団体「ピースポート」のメンバーとして活躍してきた彼女は、

ついでどんな論戦が交わされるかと思いきや、いきなり空転。政治不信を募らせ、たくなる状況だ。政治への関心は低下するばかり。民主主義国家として、憂うべき事態だ。

しかし市民活動の立場から見ると、少し違った姿が見えてくる。政治の世界との距離が、どんどん縮まり出しているのだ。

民主党の菅直人代表のよるな市民活動出身の議員が地方議会から国会まで続々と誕生し始めているからだ。NPO法案で活躍した衆院議員辻元清美さんもその一人だ。

戦争中の日本軍の行動などを現地で検証し、平和な未来を生み出そうと世界各

近づく市民活動と政治



早瀬 昇

土井たか子社民党党首の選挙応援も続けていた。そして昨年十月、「土井さんの秘書に手伝ってほしい」とあると言われ、総選挙の応援だと思つて「何でもしますよ」と答えたら「候補者になつてほしい」。もう「ビックリ」。それから二年。市民

活動やNPOと国会をつないで奮闘中だ。従来、市民活動には政治

をタブー視する風潮もあった。その背景には政治信条を超えて具体的な課題の解決に結集するという横に広がる活動スタイルが好まれたことがある。要は「政党に振り回されたくない」だ。しかし、政治性を持たない社会問題などありえない。市民活動が成長し、政党に振り回されないだけの主体性を身につけ出すと、積極的に政治にかかわる動きが出てきた。そこには、議員がボランティアだから夜に議会を開くデモンストレーションや、政党に積極的に政策を提言する米国のNPOの姿を重ねることもできる。政治が市民活動の動きを反映することは民主主義社会の条件なのだ。

(大阪ボランティア協会事務局長) 〓おわり

活動やNPOと国会をつないで奮闘中だ。

従来、市民活動には政治

来週の木曜日から「サライーマン生態学」を連載します。